

Title	情報技術の戦略的活用に関する一考察
Sub Title	
Author	五十嵐茂(Igarashi, Shigeru) 片岡一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1986
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1986年度経営学 第453号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001986-0453

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 五十嵐 茂 主査 片岡 一郎
(日本ユニバック株式会社) 副査 柳原 一夫
所属ゼミナール 嶋口 充輝 研 嶋口 充輝

情報技術の戦略的活用に関する一考察

高度情報社会の本格的な到来を前にして、経済社会では、様々な基盤整備が行なわれつつある。しかし、個別企業レベルで見ると情報化の対応は暗中模索の状態にある。その原因は、進展する情報技術をいかに取り込み、経営戦略上重要な役割を持たせればよいか、という問題に対するフレームワークが整備されていないという点にある。

本論文は、そのような問題の解決に利用できるフレームワークを構築することを目的とする。それは、情報技術の活用領域を網羅的に検討しようとするものではなく、あくまでも戦略的と明示できるような活用に限定し、関心領域とするものである。

考察に当っては経営戦略論、組織論（コンティンジェンシー理論、組織間関係論、内部組織の経済学）および情報論という3つの領域におけるこれまでの研究を基礎とする。そして、事例における戦略・組織・情報の関係の分析を通してフレームワークの構築を試みている。

導出されたフレームワークは、組織論を統一的な分析枠組とし、コンティンジェンシー・アプローチにより情報技術の戦略的活用を考える、という特徴を持ち、過去に呈示されているフレームワークの足りない部分を補なったものとなっている。また、このフレームワークは、経営戦略策定の枠組の中に位置づけられ、情報技術に対するニーズの革新に接近しようとするものでもある。